

「次世代計算科学グランドリーチプログラム」Q & A

(令和8年2月12日時点)

No.	項目	Q	A
1	その他	<p>・区分A、区分Bの競争的研究費制度名は、「スーパーコンピュータ「富岳」成果創出加速プログラム(次世代超高速電子計算機システム利用の成果促進)」で良いでしょうか。もしくは、内閣府の競争的研究費制度一覧にはR7年度版しかないのですが、R8年度になると、「次世代計算科学グランドリーチプログラム」という制度が、内閣府の競争的研究費制度一覧に掲載されるのでしょうか。</p>	<p>・競争的研究費制度名は「次世代計算科学グランドリーチプログラム」となります。内閣府の制度一覧のページについては、R8年度に更新予定です。</p>
2	実施体制	<p>・重複制限についてある課題責任者が別課題の協力者(協力機関研究者)になることや、ある課題の協力者が別の課題の協力者になることは可能でしょうか。</p>	<p>・可能です。</p>
3	実施体制	<p>・公募要領P3の「連携機関」について、「日本国内の」と記載されていませんが、海外の研究機関等を連携機関とすることは可能でしょうか。</p>	<p>・可能です。</p>
4	事業内容	<p>・区分Aのプロジェクトのポンチ絵では中心に一つの丸がありました。これは、一つの計算コードが「国際的なソフトウェアエコシステムの中核となり得る革新的なアプリケーション」という位置付けでしょうか。複数の計算コード群を「国際的なソフトウェアエコシステムの中核となり得る革新的なアプリケーション」という位置付けもあり得るでしょうか。</p>	<p>・単一の計算コード、複数の計算コード群のどちらも該当します。</p>
5	所要経費・予算	<p>・予算の管理はどのようになっていますでしょうか。基金タイプや繰り越し申請可能か、間接費の扱いなど</p>	<p>・本補助金は、高性能汎用計算機高度利用事業費補助金交付要綱及び取扱要領に基づき交付されるものであり、基金ではありません。毎年の補助金額は、事業全体の予算額と、各課題の事業評価を踏まえて決定し、それに基づき交付申請を行っていただきます。</p> <p>・繰越については、事業の進捗に伴い、試験研究に際しての事前調査又は研究方式の決定の困難、計画に関する諸条件、気象の関係、資材の入手難その他のやむを得ない事由により、年度内に支出を完了することが期し難い場合には、財務大臣の承認を経て、最長翌年度末までの繰越を認める場合があります(公募要領P12及びP23に記載のとおり)。</p> <p>・間接経費は、直接経費の30%を計上してください(公募要領P6に記載のとおり)。</p>
6	その他	<p>・区分Aまたは区分Bに応募して不採択だった場合、研究費はないが計算資源のみ配布(区分Cで採択)という措置になることはありますか。</p>	<p>・各区分の性質に応じて提案内容は変更されうるとの立場から、事業運営側で区分A又はBの不採択課題を区分Cに自動的に割り振ることはいたしません。</p> <p>・区分A又はBの不採択に伴い区分Cでの採択を希望する場合は、区分Cにも別途応募してください(同じテーマで提案することも可能です)。</p> <p>・区分Aで不採択後に同じテーマで区分Cに応募することは可能です。また、区分A、区分Bと同時に同じテーマで区分Cに応募することは可能です。いずれの場合も区分Cとしての審査は別途行われますので、区分A、区分Bで不採択となった場合も、区分Cで採択となる場合があります。</p>

7	所要経費・予算	・予算上限について、区分Aで1.2億円、区分Bで5,000万円というのは5年全体の予算になるでしょうか。	・5年全体の予算ではなく、令和8年度の予算上限となります。 ・令和9年度以降については、本プログラム全体に措置される予算額を踏まえて、申請可能な上限額を決定します。
8	所要経費・予算	・令和9年度以降の予算の目安について伺いたいです。提案時点では、区分Aの場合は1.2億円、区分Bの場合は5,000万円相当の予算を目安として計画を立てる形で問題ないでしょうか。	・提案時点では、区分Aの場合は1.2億円、区分Bの場合は5,000万円相当の予算を目安として計画を立てる形で差し支えありません。
9	計算資源	・富岳以外の計算資源（特にGPU資源）の提供を受けることは可能でしょうか。	・現時点では、本プログラムにおいて提供可能な計算資源は「富岳」のみとなります。なお、今後のHPCI計算資源の整備状況等を踏まえて、「富岳」以外の計算資源の配分に係る何らかの取組を構ずる可能性があります（HPCI計算資源の有償による優先利用等）。 ・本プログラムで配分される補助金を用いて、各機関から計算資源の提供を受ける等により「富岳」以外の計算資源を利用することは差し支えありません。
10	提案様式	・ステークホルダー評価書のFormsは、英語表記のものもありますか。	・Formsでは、日本語と英語を併記しています。また、公募のwebページにも英語を併記した回答項目一覧を掲載しています。
11	事業内容	・今後公募がでると想定される「AI for Science」による科学研究革新プログラム」との関連はどうなっているのでしょうか。これと連携して区分Cに申請することは想定されているでしょうか。	・区分Cでは特に各補助金事業との連携を想定しており、並行して申請することも差し支えありません。
12	事業内容	・提案する研究内容に、計算・アプリケーション開発だけでなく、シミュレーション・AIと実験との連携などの内容を含めてもよいのでしょうか。	・含めても差し支えありません。
13	事業内容	・「富岳」の資源70百万ノード時間はかなり大きな量です。エコシステムを利用したプロダクションランまで含んでいるという位置づけでしょうか。	・実施機関以外の者が行うプロダクションランに必要な計算資源は、本プログラムの支援対象には含まれません。 ・70百万ノード時間は、あくまで配分可能計算資源量の上限となります。実施機関が行う研究・開発等に必要な計算資源量を見積もりのうえ、申請をお願いします。
14	その他	・令和8年度の途中からスタートすることになると思いますが、事業期間の最大5年間とは令和8年度を含めて5年間でしょうか。	・「令和8年度（事業開始日）～令和12年度（令和13年3月31日まで）」が事業期間となります。
15	事業内容	・区分Cについて、既存のアプリを主として利用する課題は想定されていないのでしょうか。	・区分Cについて、既存のアプリを主として利用する課題も申請可能です。

16-1	提案様式	・申請書(様式4)-別紙1の記載方法について ここで詳細を記載する経費は代表機関のみであり、 協力機関の経費については「研究開発委託費」に金額のみ を記載すればよろしいでしょうか。	・御理解のとおりです。
16-2	提案様式	・(様式4)-別紙2について、協力機関は経費の詳細を記載 する必要は無いという理解で間違いないでしょうか。	・申請時点では項目ごとに詳細な内訳を記載いただく必要 はありませんが、「実施内容」の欄に経費の用途等を併せて 記載してください。 なお、審査や採択後の交付申請の過程で、見積書等の詳 細な積算を求めることがありますので御留意ください。
16-3	提案様式	・e-Radでは、「研究開発委託費」は直接経費の何に入力す ればよいでしょうか。	・e-Radでは直接経費の「外注費(雑役務費)」に御入力くだ さい。
17	計算資源	・本プログラムで配分される計算資源は現状「富岳」のみと なっていますが、プログラムの趣旨を踏まえると「富岳」以外 のGPU計算資源等を用いた研究開発等も含めた実施計画 として提案して良いでしょうか。	・御認識のとおりで差し支えありません。ぜひ積極的に御検 討ください。 ・本プログラムはポスト富岳時代(2030年代)を見据えた戦 略的なアプリケーション等の研究開発を推進するものであ り、国際的なソフトウェアエコシステムへの参入を目指す上 で、GPUへの対応やAI活用は特に重要な要素の1つである と認識しております。本プログラムとしては「富岳」の大規模 な計算資源を用いた研究開発の実施と併せて、GPU計算資 源の利活用を前向きに位置付けており、特に文部科学省公 募事業「次世代HPC・AI開発支援拠点形成」との連携をはじ め、新たな技術動向を踏まえた研究開発の実施や係る計画 の策定、必要な体制の構築等について、審査における評価 項目として設定しております。